

拠点運営での取組報告

〈事業報告〉

なごみん

2024.6.5/11.13 市民活動サポート研修「マネジメント研修」

市民活動を始めた方や始めたばかりの方を対象に市民活動団体の組織力向上、課題解決につながる研修を行いました。

講義だけでなく、事例紹介やグループ討論も実施したこと、市民活動団体設立・登録についての制度を知るだけでなく、団体設立後、運営をしていくための有益な情報を得る機会を提供できました。参加者からは、団体登録の恩恵とそれに伴う義務を知ることができた、会員減少が悩みだったが問題解決の参考になったなどの感想をもらい、研修の満足度が高い様子がみられました。加えて、この研修をきっかけに新たに2つの市民活動団体設立が実現しました。



悠紀の里 2024.10.13 ゆきファミリーパーク

子育て支援団体と協働して、子育て世代向けのイベントを開催しました。当日は、19団体による、体験ブース・販売ブースの出店に加え、「みんなのむつみ展」も同時に開催。総来場者は763名で、アンケートでは、ほぼ100%の参加者が楽しかったと回答しており、非常に大きな賑わいをみせました。

参加団体からは、当日だけでなく、7月に、参加団体を対象に開催した「子育て支援交流会」も好評で、出展する方がどんな活動をしているのかわかつて良かった、イベント前にリアルなお話を交流ができるよかったですといったご意見をいただきました。



まち育て推進チーム Pick UP !

〈イベントレポート〉 総代会連絡協議会



2025年1月10日(金)に学区総代会長向けに開催された総代会連絡協議会研修にて、「デジタル技術の活用と、これからの中内会のあり方」をテーマとし、りたが講師、ファシリテータを務めました。

前半は、全町アンケートの結果を踏まえ、LINEや結ネット等の活用事例紹介を含めた町内活動におけるデジタル技術の活用方法を講義しました。後半はグループに分かれ、自学区におけるデジタル運営の現状や課題、今後の取組について意見交換を実施。デジタルに強い人材の登用や現状にさらに付加価値をつけて前進させたいなど、前向きな意見も出了しました。

参加者からは他町内の様子が分かり有意義だった、参考にしたいなど、97.3%が「大変良い・良い」と回答する研修を提供することができました。

お問合せ	よりなん	59-3600	むらさきかん	66-3066	市民活動センター	23-3114
なごみん	66-8251	やはぎかん	33-3665	悠紀の里	57-5050	まち育て推進チーム

まちのミカタ

Litaracy

発行・編集

特定非営利活動法人
岡崎まち育てセンター・Lita

〒444-0031 愛知県岡崎市梅園町3丁目6-6
TEL(0564)23-2888/FAX(0564)23-2898
<http://www.okazaki-lita.com/>
<https://www.facebook.com/okazaki.lita/>

2025.03 vol.132

配布

岡崎市図書館交流プラザ・Libra／岡崎市内の地域交流センター
会員宛へ郵送 等 ※会員登録をご希望の方は左記までご連絡ください。

配布協力

岡崎市役所各支所／岡崎市各市民センター／シビックセンター／
FMおかざき／杉くんの駄菓子屋／松應寺／cafeくらがり

まちのミカタ

Litaracy 一りたらしいー

132

2025年3月



西梅園の路地の風景



山田農園監修による地域菜園づくり



有志による縁側づくりワークショップ



町内会主催の茶話会(月1回開催)

特集

地域課題をポジティブに解く 西梅園の路地まちづくり

岡崎市の中心市街地の北東部に位置する西梅園地区は、戦災を免れた街区で、幅員が2mに満たない路地が残っています。4m以上の公道に面していない敷地では再建築ができず、車も入っていけないため、後継世代が転出傾向にあり、空き家と独居・老々世帯が増加しつつあります。

一方で、籠田公園はじめQURUWAエリアには、魅力的な場所や個性的な店舗が増えたことにより、出店したいというニーズだけではなく住みたいというニーズも高まっています。

そこで、西梅園の木造密集の防災上の課題、増加する高齢者の生活支援や介護予防、無接道敷地の解消といった複合的な地域課題に対して、空き家を有用な地域資源として活用し、新たにこのエリアに関わる「関係人口」を増やすことで、地域課題をポジティブに解決しようとする「西梅園プロジェクト」が始まりました。

※本事業の一部は、令和6年度ハウジングアンドコミュニティ財団(以下、HC財団)「住まいとコミュニティづくり活動助成(住まい活動部門)」の助成を受けて実施しています。

地域課題をポジティブに解く 西梅園の路地まちづくり

●路地まちづくりの前史 | 松應寺横丁の経験

西梅園地区は、再建築が困難な路地が広がる街区という点で松應寺横丁と共にあります。松應寺横丁での経験から、空き家と高齢者福祉の課題解決が密接に関係しており、空き家活用を通じて地域の魅力を高めたり、課題を解決することができる学んだことが、西梅園での本事業のバックボーンになっています。

●蓄積された社会関係(ソーシャルキャピタル)

西梅園地区は、岡崎市中央地域福祉センターのおひざもとにあります。りたは、同センターに設置されている中央地域包括支援センター(以下「中央包括」と)と、7町・広域連合会(Litaracy108、118参照)の会合や地域包括ケア連携の業務(Litaracy94、113参照)等で日ごろから情報共有をする関係性ができていました。また、西梅園町内会とは7町・広域連合会の仲介により、スムーズに関係構築をすることができました。こうした顔の見える関係(ソーシャルキャピタル)が事業の立ち上げに有効に働きました。

●空き家+地域菜園で地域課題解決の拠点に

そんな折、西梅園にある1軒の空き家が売りに出されました。この物件を地域の課題解決の拠点として活用することを前提に、「QURUWA事業リノベーションスクール(以下「リノスク」)」に参加し、どのように事業化をしていったらよいかを検討しました。西梅園総代や中央包括等との協議を進めつつ、リノスクで経験豊富な専門家のアドバイスや参加事業者の協力を仰ぎながら、当該物件を地域内外の連携を促す地域菜園つきのシェアハウスとして活用することにしました。法人としての不動産取得は見送りましたが、事業発案者の天野が取得・改修し、りたとしてHCC財団の助成を得て地域菜園を軸にしたまちづくり活動に取組んでいます。

●地域課題の把握 | 住民アンケートの実施

まず、西梅園総代や中央包括と共に空き家や独居・老々世帯の実態について意見交換をし、地域の課題や住民の方の意向を把握するための住民アンケートを実施しました(回答率:58.3%)。地域の課題や個人的な困りごと、現在の住いの将来の使い方、無接道敷地の解消に対するご意見等について尋ね、これらをもとに現在地域の将来ビジョンの作成を進めています。

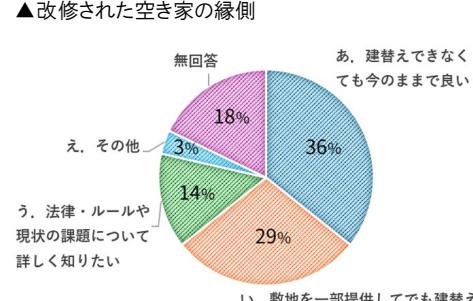
●地域内外の交流を促す茶話会の開催

シェアハウス「キノエノ* farm house」は9月から運用が開始され、10月からはシェアハウスの共用スペースを利用し、町内会主催の茶話会を月に1回開催しています。中央包括や福祉センターの力添えもあり、茶話会参加者は徐々に増え、現在では十数名のご近所さんが集まり、みんなで一緒に食事をつくり食べたりしながら旧交を温めています。また、地域の新参者の我々やシェアハウス入居者が地域の方と仲良くなれる新旧住民の地域交流の場となっています。こうして築かれる関係性こそが、地域の課題を解決したり、魅力を高めるポジティブな原動力になっていくのです。今後の展開も、本誌でお届けします。

●次々に広がる協働・共創の輪

西梅園の拠点整備・運営には多くの方が関わっています。リノスク参加企業では、菜園づくりに山田農園、改修のDIYワークにスノーピークビジネスソリューションズ有志、断熱改修施工に大冷工業株式会社、土壤調査にグリーンフロント研究所株式会社、施工につづけ建築工房(地域産木材の調達は小原木材株式会社)と連携・協働しています。茶話会では、岡崎市ふくし相談課より提供いただいたフードライブの食材のほか、下山のYAMABIKO青空市や偶偶朝市の野菜が使われています。

紙幅の関係で書ききれませんが、こうした協働・共創の輪は、まちづくりを進めていく上でのりたの財産です。この場をお借りして関わっていただいている皆さんに、心より御礼申し上げます。



●企業・店舗を応援する若い力

岡崎市は、令和4年(2022年)11月に環境省から「脱炭素先行地域」に選定され、2050年までにゼロカーボンシティを実現するための具体的な施策を進めています。りたは昨年度より、岡崎市からの委託事業として、カーボンニュートラル人材育成事業を実施しています。(Litaracy126参照)

岡崎市内には、効果的なボイラー導入やCO₂を回収・再利用する技術の開発といった新しいテクノロジーを活用し、カーボンニュートラルへの取組をしている企業や、古着、木や石の端材といったリユース・リサイクルに積極的に取り組んでいる企業があります。また、新聞紙や手提げ紙袋を再利用したエコバックを使い、プラスチック製の袋の利用を廃止しているお店なども多くあることが分かりました。それを受け、今年度は市内において、脱炭素社会の実現に向けてCO₂を削減するためのサービスや商品を提供している企業や店舗に着目し、小学生から高校生といった次世代を担う子供たちに、その取組を知ってもらう為のプログラムを企画しました。その一環として、市内の学校に通う高校1年生から2年生までの7人の有志による『CO₂バスターズライター』を結成し、企業や店舗を取材して記事にするという体験プログラムを実施しました。

取材では、企業や店舗の脱炭素に向けた取組について、概要や経緯、成果や課題、そして今後の計画に真剣に耳を傾ける高校生たちの様子が見られました。また、グリーンフロント研究所株式会社の協力で、取材した結果を元にCO₂の削減量を高校生達が自ら計算し、削減量の見える化もしました。今後、作成した記事を発信して、岡崎市の脱炭素化に向けた取組を応援していく予定です。



▲いちごのハウスで担当者から説明
(JAあいち三河 下青野町)

りた's Eye

CO₂バスターズライターのメンバーは学校でSDGsについて学んでいる事もあり、環境に対する関心が高いです。また、取材して記事にまとめる事で社会で起こっている事を知りたいという思いを持った高校生が多く、とても頼もしく感じました。社会を変えていくには、若い世代の力が必要だと感じさせられました! CO₂バスターズライターの取材記事は、3月末に公開予定です。どうぞご期待ください。

地域のお祭りに参加しました!



南部地域交流センター・よりなんは、上地学区内にあります。日ごろから町内会や総代の皆さんと顔を合わせる機会もあり、良好な関係づくりを目指しています。2024年11月に「親子秋祭り」に地域連携事業として参加しました。よりなんとして実行委員会に加わり、地域の主要団体と意見を出し合いながら準備を進めました。

当日は紙管を使った工作ブースを運営し、子どもたちが自由に作品を作る場を提供しました。行列が絶えず、材料切れとなるほど盛況ぶりで、地域の方々からの反応も良く、次回もぜひ参加したいと考えています。今後も地域の皆さんと協力し、より良いイベントづくりに取り組んでいきたいです。



石田浩美(よりなんセンター長)

2008年11月よりなんにパート職員で入社。やはぎかんに異動後センター長になり、現在はよりなんにて勤務。